

令和8年度入学生対象

別記様式1

主専攻プログラム詳述書

開設学部（学科）名〔教育学部第五類（人間形成基礎系）教育学プログラム〕

プログラムの名称（和文） （英文）	教育学プログラム Program in Educational Studies
1. 取得できる学位 学士（教育学）	
<p>2. 概要</p> <p>本プログラムは、教育諸科学の体系的知識を提供し、教育に関する高い識見と総合的な判断力をもつ専門的人材の育成をめざす。</p> <p>教育は、人間と社会のさまざまな要因が複雑に絡み合った事象である。したがって本プログラムは、学生が教育に関するさまざまな理論や思想、事象、課題について、哲学的・歴史的・社会学的・国際比較の視野に立って学習し研究するとともに、教育方法・技術や教育課程、学校経営・教育行財政、幼児教育、社会教育・生涯学習をめぐる具体的問題群についての理論的・実践的検討を行いうるよう構成されている。</p> <p>プログラム履修後は、より高度な学的探求を行うため大学院へ進学するほか、教職、教育行政職（公務員）、教育分野での国際的な開発協力実践家など、教育科学の専門性を活かせる各種分野で活躍することが、主として期待される。</p>	
<p>3. ディプロマポリシー（学位授与の方針・プログラムの到達目標）</p> <p>教育学プログラムでは、教育諸科学の体系的知識を提供し、教育に関する高い識見と総合的な判断力をもつ専門的人材の育成をめざしています。そのため、本プログラムでは、以下の能力を身につけ、教育課程に定められた基準の単位数を修得した学生に「学士(教育学)」の学位を授与します。</p> <p>(1) 教育関連諸科学の諸概念や理論を理解し、人間形成の視点からこれらを総合することができる。</p> <p>(2) 外国語運用能力、統計分析、観察法、情報処理など、教育学の研究手法を用いることができる。</p> <p>(3) 具体的な教育課題に対して、情報収集力や研究手法を応用し、分析的・批判的に判断できる（クリティカルシンキング）。</p> <p>(4) 研究開発・問題解決・政策立案など、教育に関する研究・実践を発展的に継続することができる。</p>	
<p>4. カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）</p> <p>教育学プログラムでは、学生が教育に関するさまざまな理論や思想、事象、課題について、哲学的・歴史的・社会学的・国際比較の視野に立って学習し研究するとともに、教育方法・技術や教育課程、学校経営、教育行財政、社会教育・生涯学習、幼児教育、高等教育をめぐる具体的問題群についての理論的・実践的検討を行いうるよう構成されています。本プログラムでは到達目標を実現させるために、次の方針のもとに教育課程を編成し、実施します。</p> <p>1年次には、教養教育科目を履修し、専門教育の基盤づくりを行います。また、「教育哲学」から「高等教育概論」まで11領域にわたって開設された専門基礎科目を履修し、教育関連諸科学の基礎的知識を習得します。</p> <p>2年次には、教養教育科目や専門基礎科目を引き続き履修するとともに、教育哲学から幼児教育学まで10領域にわたって開設された領域基礎演習を履修することで、教育に関する資料・情報・データの収集力と</p>	

具体的な教育課題に対する分析力・判断力を習得します。また、領域基礎演習では外国語運用能力や調査・研究の基礎となる教育学の研究手法の習得も行います。2年次までに履修した領域基礎演習や「教育学総合演習A」をもとに、学生は自分の研究関心に即して特定領域を選択し、3年次以降に備えます。

3年次には、領域基礎演習や研究法に関する専門科目を引き続き履修します。それとともに、学生は特定領域の研究室に所属します。自分の選択した領域の課題演習を履修することで、指導教員による少人数・個別指導を受けながら卒業論文のテーマを設定し、「教育学総合演習B」で卒業論文の構想発表を行います。

4年次には、自分の選択した領域の課題研究を履修し、卒業論文作成に取り組みます。卒業論文では、教育の専門家に求められる研究開発能力・政策立案能力や、生涯にわたって自らの能力・学識を開発しつづけるための自己学習力を培います。

上記のように編成した教育課程では、講義、実技、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、体験型学習、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践します。

学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価と共に、本教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

5. 開始時期・受入条件

プログラム開始（選択）時期は、1年次である。

6. 取得可能な資格

特定プログラムを追加して修得すると、学芸員、学校図書館司書教諭などの資格が取得可能である。

教育職員免許法に基づいて教職関係科目を併せて修得することにより、中学校教諭一種免許（社会）、高等学校教諭一種免許（公民）を取得できる。

7. 授業科目及び授業内容

※授業科目は、別紙1の履修表を参照すること。

※授業内容は、各年度に公開されるシラバスを参照すること。

8. 学習の成果

各学期末に、学習の成果の評価項目ごとに、評価基準を示し、達成水準を明示する。

各評価項目に対応した科目の成績評価をS=4、A=3、B=2、C=1と数値に変換した上で、加重値を加味し算出した評価基準値に基づき、入学してからその学期までの学習の成果を「極めて優秀(Excellent)」、「優秀(Very Good)」、「良好(Good)」の3段階で示す。

成績評価	数値変換
S（秀：90点以上）	4
A（優：80～89点）	3
B（良：70～79点）	2
C（可：60～69点）	1

学習の成果	評価基準値
極めて優秀(Excellent)	3.00～4.00
優秀(Very Good)	2.00～2.99
良好(Good)	1.00～1.99

※別紙2の評価項目と評価基準との関係を参照すること。

※別紙3の評価項目と授業科目との関係を参照すること。

※別紙4のカリキュラムマップを参照すること。

9. 卒業論文（卒業研究）（位置づけ、配属方法、時期等）

教育の専門家には、研究開発能力・政策立案能力が従来以上に求められている。その能力を養うために、教育学プログラムでは卒業研究に8単位を課して大きな比重を置いている。

卒業研究は、テーマ設定や研究構想の段階も含めて、主に次の2つを通して指導をおこなう。

- 1) 領域課題演習及び課題研究：これらは卒業論文作成につながるモノグラフィー的事例学習の授業科目であり、各指導教員による少人数・個別指導をおこなう。
- 2) 発表会：研究開発能力・政策立案能力の習得を証明し表現する機会として、卒業論文の構想発表と成果発表をおこなう。

【配属時期と配属方法】

4セメスターに開設される「教育学総合演習A」における研究室紹介及び研究室訪問を通して配属についてのガイダンスをおこない、卒業論文指導教員（研究室）を決め、5セメスターから配属する。

10. 責任体制

(1) PDCA責任体制（計画(plan)・実施(do)・評価(check)・改善(action)）

本プログラムは、主として教育学部の教育学プログラムを担当するスタッフにより遂行される。その遂行上の責任は、プログラム責任者（教育学プログラム主任）にある。計画・実施・評価検討・対処は、本プログラム教員会が行う。なお、プログラム外からの評価検討・対処は、教育学部内の担当部会により進められ、プログラムの到達度が評価され、勧告が示される。

(2) プログラムの評価

- ・各レベルの評価をプログラムにフィードバックさせ、プログラム自体の評価・改善を図る。
- ・プログラム履修をとおして達成された知識・能力が実践的にどのように活かされているか、卒業生の追跡調査により評価する。

教育学プログラムにおける学習の成果

評価項目と評価基準との関係

学習の成果		評価基準			
評価項目		極めて優秀(Excellent)	優秀(Very Good)	良好(Good)	
知識・理解	(1) 教育哲学、日本東洋教育史、西洋教育史、教育社会学、教育方法学、社会教育学、教育行政学、比較教育学、教育経営学、幼児教育学、高等教育学などの教育関連諸科学の基礎を習得している。	教育関連諸科学の基本的な諸概念や理論を理解し、多様な観点を総合化することができるとともに、自らの意見・立場を適切に位置づけることができる	教育関連諸科学の基本的な諸概念や理論を理解し、多様な観点を総合化することができる	教育関連諸科学の基本的な諸概念や理論を理解し、説明することができる。	
	能力・技能	(1) 外国語運用能力、統計分析、観察法、情報処理など、教育学の研究手法の基礎を習得している。	幾つかの研究手法に関して基本的知識を持っており、適切な手法を選択して自らの調査研究を遂行することができる	幾つかの研究手法に関して基本的知識を持っており、その手法を用いて与えられた課題を遂行することができる	幾つかの研究手法に関して基本的知識を持っており、その概要について説明することができる
		(2) 現代の多様なメディア状況に対応し、図書館、資料・史料館、インターネットなどを駆使して、教育に関する情報を収集できる。	自らの知識と理解を広げるために、図書館、資料・史料館、インターネットなど多様なメディアを駆使して、広範な領域から一次および二次情報を収集することができる	自らの知識と理解を広げるために、図書館、資料・史料館、インターネットなど幾つかのメディアを駆使して、関連情報を収集することができる	図書館、資料・史料館、インターネットなどの利用法を知っており、授業等における参考文献・情報を収集することができる
(3) 具体的な教育課題に対して、情報収集力や研究手法を応用し、得られた資料ならびに結果を分析的・批判的に吟味できる(メディアリテラシー、クリティカルシンキング)。	具体的な課題に情報収集力や研究手法を応用し、得られた資料ならびに結果をまとめ、その内容を分析的・批判的に吟味することができる	具体的な課題に情報収集力や研究手法を応用し、得られた資料ならびに結果をまとめ、その内容を論理的に正確に読解することができる	具体的な課題に情報収集力や研究手法を応用し、得られた資料ならびに結果をまとめることができる		
総合的な力	(1) 教育諸現象から問題点を見極め、適切な研究手法を適用し、独自の成果として結論を提起できる研究能力を習得している。	教育諸現象から問題点を見極め、適切な研究手法の適用と資料吟味を通して説得力のある議論を展開し、独自の成果として結論を導くことができる	設定した課題について、適切な研究手法と資料吟味を通して、整合性のある議論を展開し、適切に結論を導くことができる	設定した課題について整合性のある議論を展開することができる	
	(2) 研究成果を正確かつ明瞭に発表するための諸技能を習得している。	口頭や文章で研究成果を正確かつ明瞭にプレゼンテーションすることができ、質疑応答において生産的なコミュニケーションをおこなうことができる	口頭や文章で研究成果を正確かつ明瞭にプレゼンテーションすることができ、質疑応答において適切にコミュニケーションすることができる	口頭や文章で研究成果を正確かつ明瞭にプレゼンテーションすることができる	
	(3) 研究成果への自他の評価を踏まえて、教育に関する研究・実践を発展的に継続することができる。	自らの研究成果の問題点を把握し新たな課題を見出すことができ、その課題の解決について展望を持つことができる	自らの研究成果の問題点を把握でき、新たな課題を見出すことができる	自らの研究成果の問題点を把握することができる	

主専攻プログラムにおける教養教育の位置づけ

教育学は人間と社会に関わる諸科学と密接な関連をもちながら発展してきた学際的な学問である。それゆえ、教育学プログラムでは、人間と社会についての幅広く深い洞察を養う教養教育を基盤として、教育関連諸科学の専門的知識を教授する専門教育を積み上げる。さらに、教育学の研究手法の土台となる、外国語能力や情報に関する基礎的知識・活用技術・モラルなどを教養教育で身につける。

科目区分	授業科目名	単位数	必修・ 選択 区分	開設期	主要授 業科目	評価項目												科目中 の評価 項目の 総加重 値							
						知識・理解		能力・技能						総合的な力											
						(1)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)										
	教育学総合演習B	1	必修	6セメ	○												100	1							100
	教育哲学課題研究	1・1	選択 必修	7セメ 8セメ	○												100	1							100
	日本東洋教育史課題研究	1・1	選択 必修	7セメ 8セメ	○												100	1							100
	西洋教育史課題研究	1・1	選択 必修	7セメ 8セメ	○												100	1							100
	教育社会学課題研究	1・1	選択 必修	7セメ 8セメ	○												100	1							100
	教育方法学課題研究	1・1	選択 必修	7セメ 8セメ	○												100	1							100
	社会教育学課題研究	1・1	選択 必修	7セメ 8セメ	○												100	1							100
	教育行政学課題研究	1・1	選択 必修	7セメ 8セメ	○												100	1							100
	比較教育学課題研究	1・1	選択 必修	7セメ 8セメ	○												100	1							100
	教育経営学課題研究	1・1	選択 必修	7セメ 8セメ	○												100	1							100
	幼児教育学課題研究	1・1	選択 必修	7セメ 8セメ	○												100	1							100
	卒業論文	6	必修	8セメ	○														50	1	50	1			100

教育学プログラムカリキュラムマップ

学習の成果 評価項目		1年		2年		3年		4年		
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
知識・理解	1) 教育哲学、日本東洋教育史、西洋教育史、教育社会学、教育方法学、社会教育学、教育行政学、比較教育学、教育経営学、幼児教育学、高等教育学などの教育関連諸科学の基礎を習得している。	領域科目(○)	領域科目(○)	領域科目(○)	領域科目(○)					
		日本東洋教育史 I, II(○)	教育哲学 I, II(○)		高等教育概論(○)					
		社会教育学 I, II(○)	西洋教育史 I, II(○)		教育学総合演習A(◎)					
		教育行政学 I, II(○)	教育社会学 I, II(○)							
		幼児教育学 I, II(○)	教育方法学 I, II(○)							
	比較教育学 I, II(○)	教育経営学 I, II(○)								
能力・技能	1) 外国語運用能力、統計分析、観察法、情報処理など、教育学の研究手法の基礎を習得している。	外国語科目(○)	外国語科目(○)			教育調査統計法演習(○)				
				教育哲学演習 I, II(○)	教育フィールドワーク演習(○)					
				西洋教育史演習 I, II(○)	日本東洋教育史演習 I, II(○)					
				教育社会学演習 I, II(○)	社会教育学演習 I, II(○)					
				教育方法学演習 I, II(○)	教育行政学演習 I, II(○)					
			教育経営学演習 I, II(○)	比較教育学演習 I, II(○)						
				幼児教育学演習 I, II(○)						
	2) 現代の多様なメディア状況に対応し、図書館、資料・史料館、インターネットなどを駆使して、教育に関する情報を収集できる。	大学教育基礎科目(◎)					教育哲学課題演習(○)	教育哲学課題演習(○)		
		情報・データサイエンス科目(○)					日本東洋教育史課題演習(○)	日本東洋教育史課題演習(○)		
							西洋教育史課題演習(○)	西洋教育史課題演習(○)		
							教育社会学課題演習(○)	教育社会学課題演習(○)		
							教育方法学課題演習(○)	教育方法学課題演習(○)		
						社会教育学課題演習(○)	社会教育学課題演習(○)			
						教育行政学課題演習(○)	教育行政学課題演習(○)			
						比較教育学課題演習(○)	比較教育学課題演習(○)			
					教育経営学課題演習(○)	教育経営学課題演習(○)				
					幼児教育学課題演習(○)	幼児教育学課題演習(○)				
3) 具体的な教育課題に対して、情報収集力や研究手法を応用し、得られた資料ならびに結果を分析的・批判的に吟味できる(メディアリテラシー、クリティカルシンキング)。	情報・データサイエンス科目(○)			教育哲学演習 I, II(○)	日本東洋教育史演習 I, II(○)	教育哲学課題演習(○)	教育哲学課題演習(○)			
				西洋教育史演習 I, II(○)	社会教育学演習 I, II(○)	日本東洋教育史課題演習(○)	日本東洋教育史課題演習(○)			
				教育社会学演習 I, II(○)	教育行政学演習 I, II(○)	西洋教育史課題演習(○)	西洋教育史課題演習(○)			
				教育方法学演習 I, II(○)	比較教育学演習 I, II(○)	教育社会学課題演習(○)	教育社会学課題演習(○)			
				教育経営学演習 I, II(○)	幼児教育学演習 I, II(○)	教育方法学課題演習(○)	教育方法学課題演習(○)			
					社会教育学課題演習(○)	社会教育学課題演習(○)				
					教育行政学課題演習(○)	教育行政学課題演習(○)				
					比較教育学課題演習(○)	比較教育学課題演習(○)				
					教育経営学課題演習(○)	教育経営学課題演習(○)				
					幼児教育学課題演習(○)	幼児教育学課題演習(○)				

総合的な力	1) 教育諸現象から問題点を見極め、適切な研究方法を適用し、独自の成果として結論を提起できる研究能力を習得している。							教育哲学課題研究(○)	教育哲学課題研究(○)
								日本東洋教育史課題研究(○)	日本東洋教育史課題研究(○)
								西洋教育史課題研究(○)	西洋教育史課題研究(○)
								教育社会学課題研究(○)	教育社会学課題研究(○)
								教育方法学課題研究(○)	教育方法学課題研究(○)
								社会教育学課題研究(○)	社会教育学課題研究(○)
								教育行政学課題研究(○)	教育行政学課題研究(○)
								比較教育学課題研究(○)	比較教育学課題研究(○)
								教育経営学課題研究(○)	教育経営学課題研究(○)
								幼児教育学課題研究(○)	幼児教育学課題研究(○)
2) 研究成果を正確かつ明瞭に発表するための諸技能を習得している。	大学教育基礎科目(◎)						教育学総合演習B(◎)		卒業論文(◎)
3) 研究成果への自他の評価を踏まえて、教育に関する研究・実践を発展的に継続することができる。									卒業論文(◎)

(例) 教養科目

専門基礎

専門科目

卒業論文

(◎)必修科目

(○)選択必修科目

(△)選択科目

教育学プログラム担当教員リスト

教員名	職名	内線番号	研究室	メールアドレス
丸山 恭司	教授	6730	教育学部 A501	yasumaru@
杉田 浩崇	准教授	6731	教育学部 A502	hiro9525@
白石 崇人	准教授	6736	教育学部 A508	tshira2@
三時 眞貴子	准教授	6737	教育学部 A509	msan@
山田 浩之	教授	6739	教育学部 A510	yam@
尾川 満宏	准教授	6740	教育学部 A511	ogam@
福田 敦志	准教授	6743	教育学部 A601	atsushi72@
吉田 成章	准教授	6742	教育学部 A602	nariakira@
松田 弥花	准教授	6746	教育学部 A604	yaka-matsuda@
滝沢 潤	教授	6749	教育学部 A612	takizawa@
小川 佳万	教授	6751	教育学部 A614	yogawa@
曾余田 浩史	教授	6754	教育学部 A615	hsoyoda@
中坪 史典	教授	6885	教育学部 B708	nakatsub@
周 艶芳	助教	6884	教育学部 B709	enhoshou2025@

※E-mail アドレスは「@」のあとに、「hiroshima-u.ac.jp」を付けて送信してください。

※「082-424-（内線番号4桁）」とすれば、直通電話となります。

（霞：082-257-（内線番号4桁））

（東千田：082-542-（内線番号4桁））